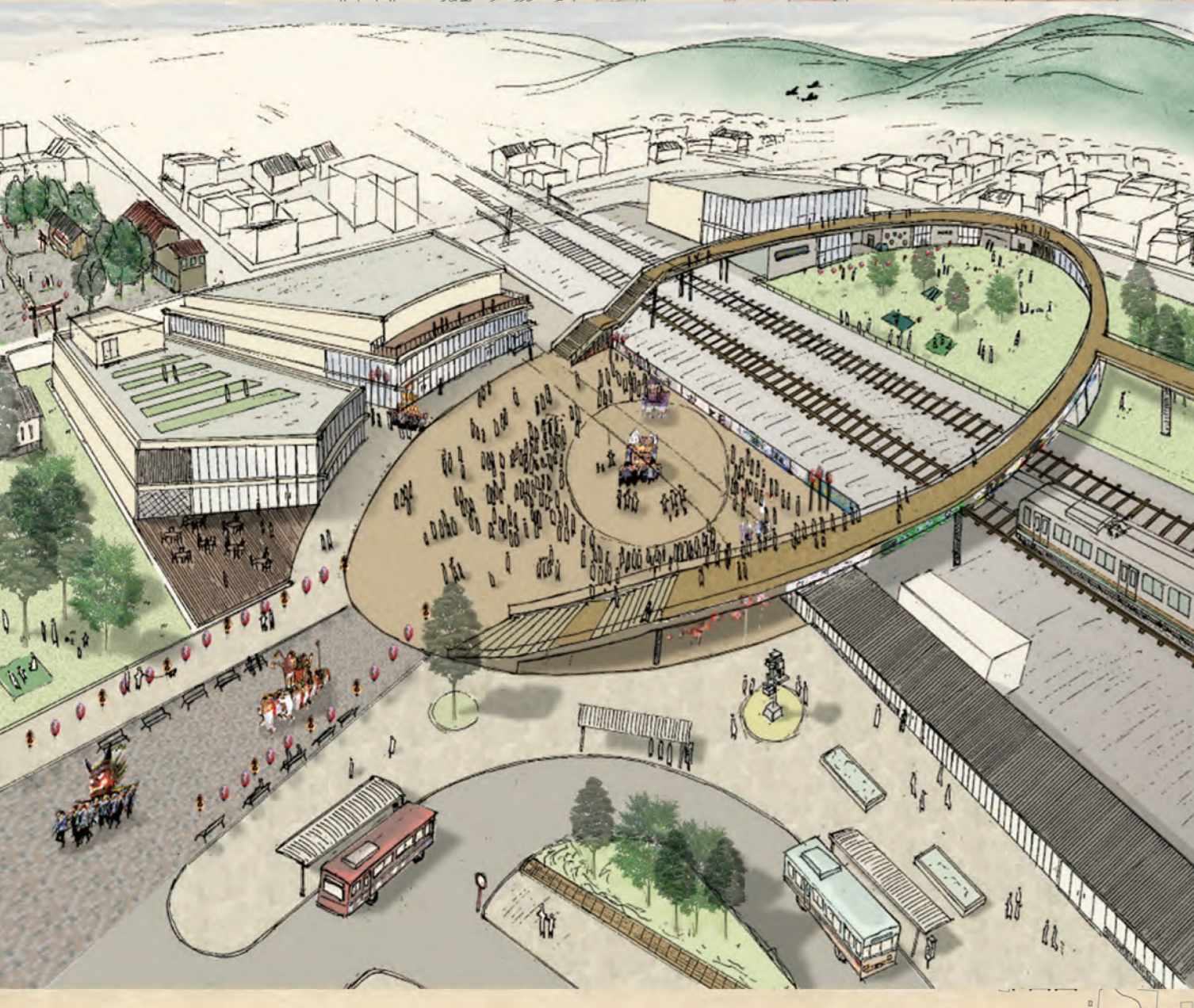


都市機能推進区域の計画

—各町の文化や祭りの拠点となる“大舞台広場”

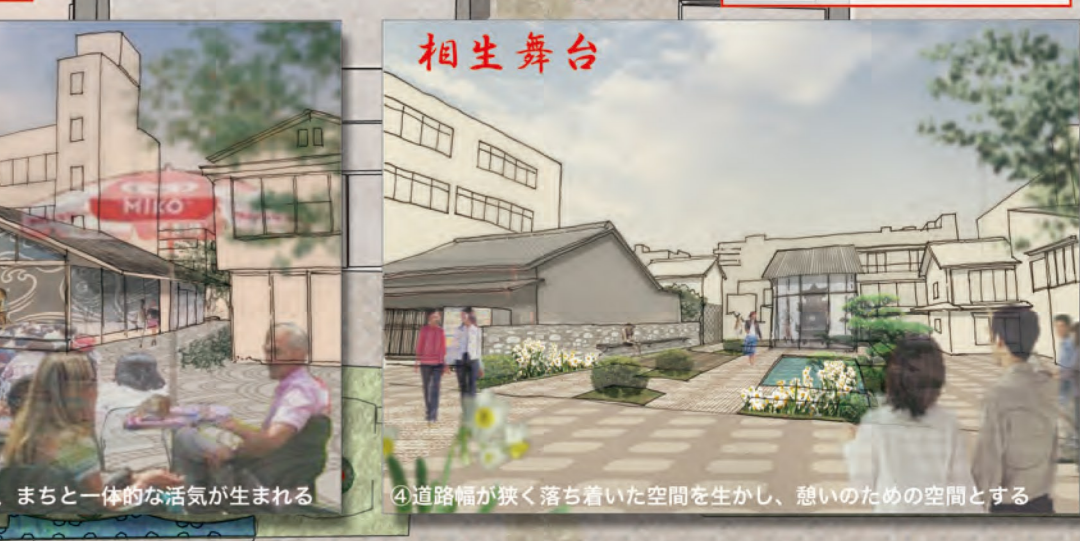
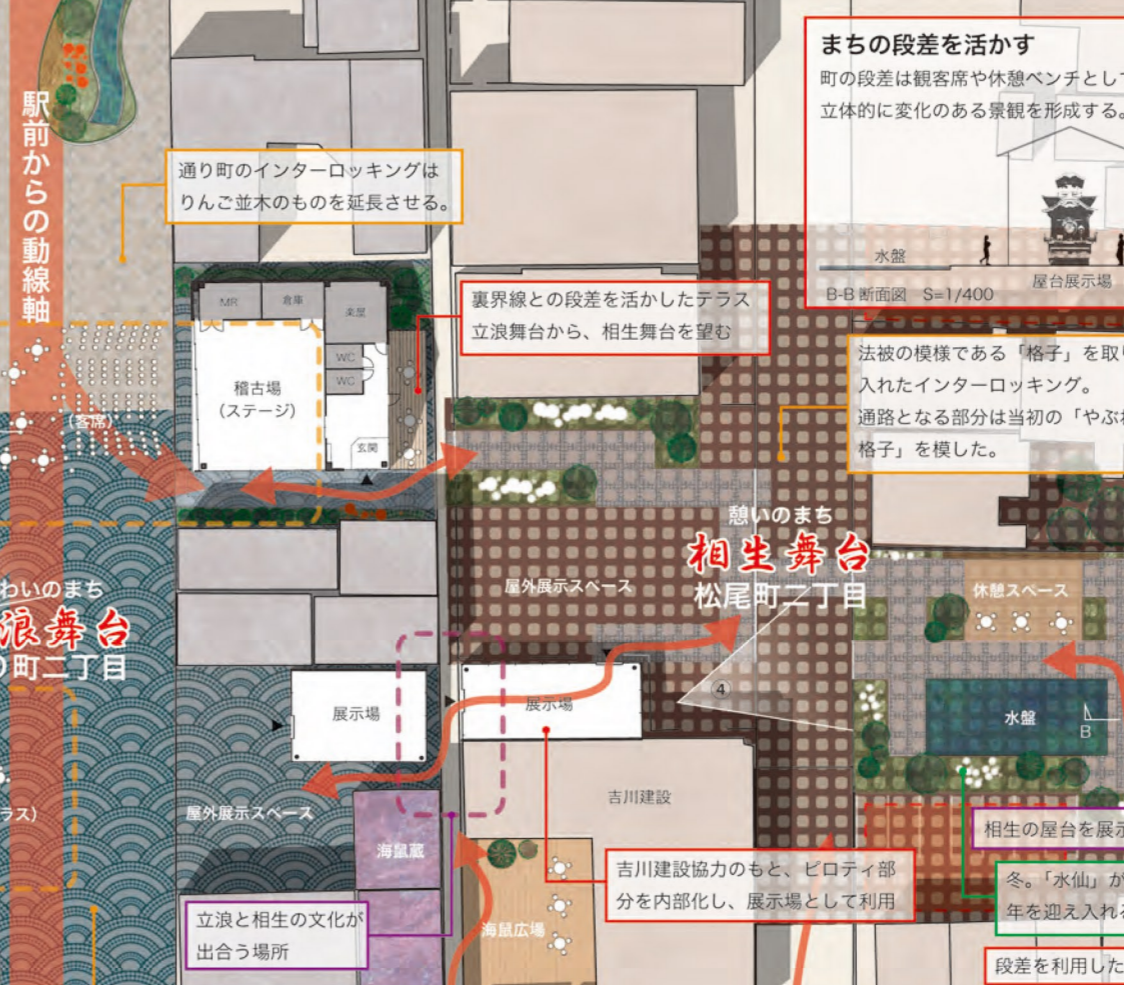
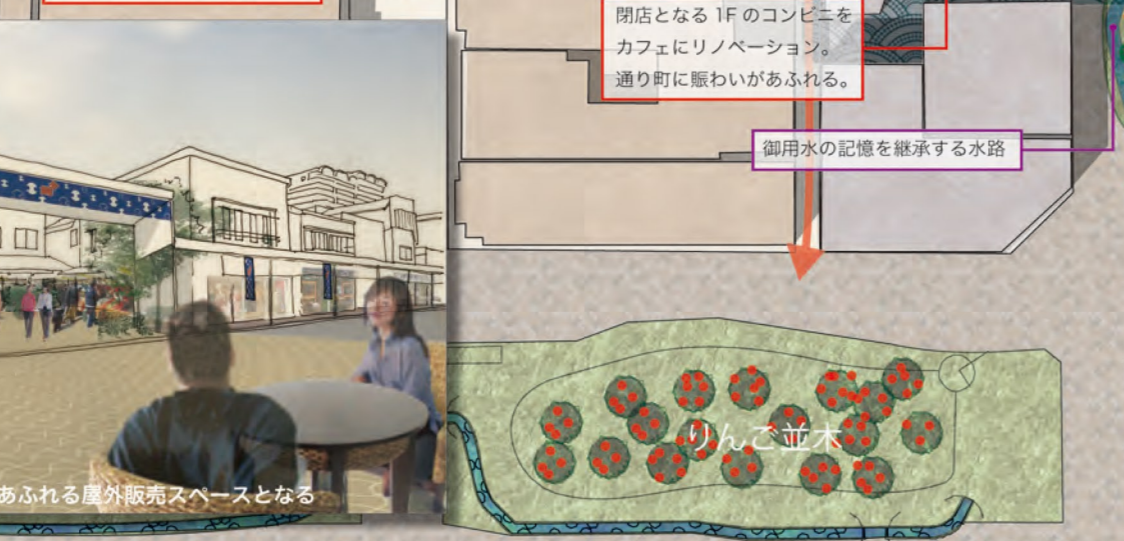
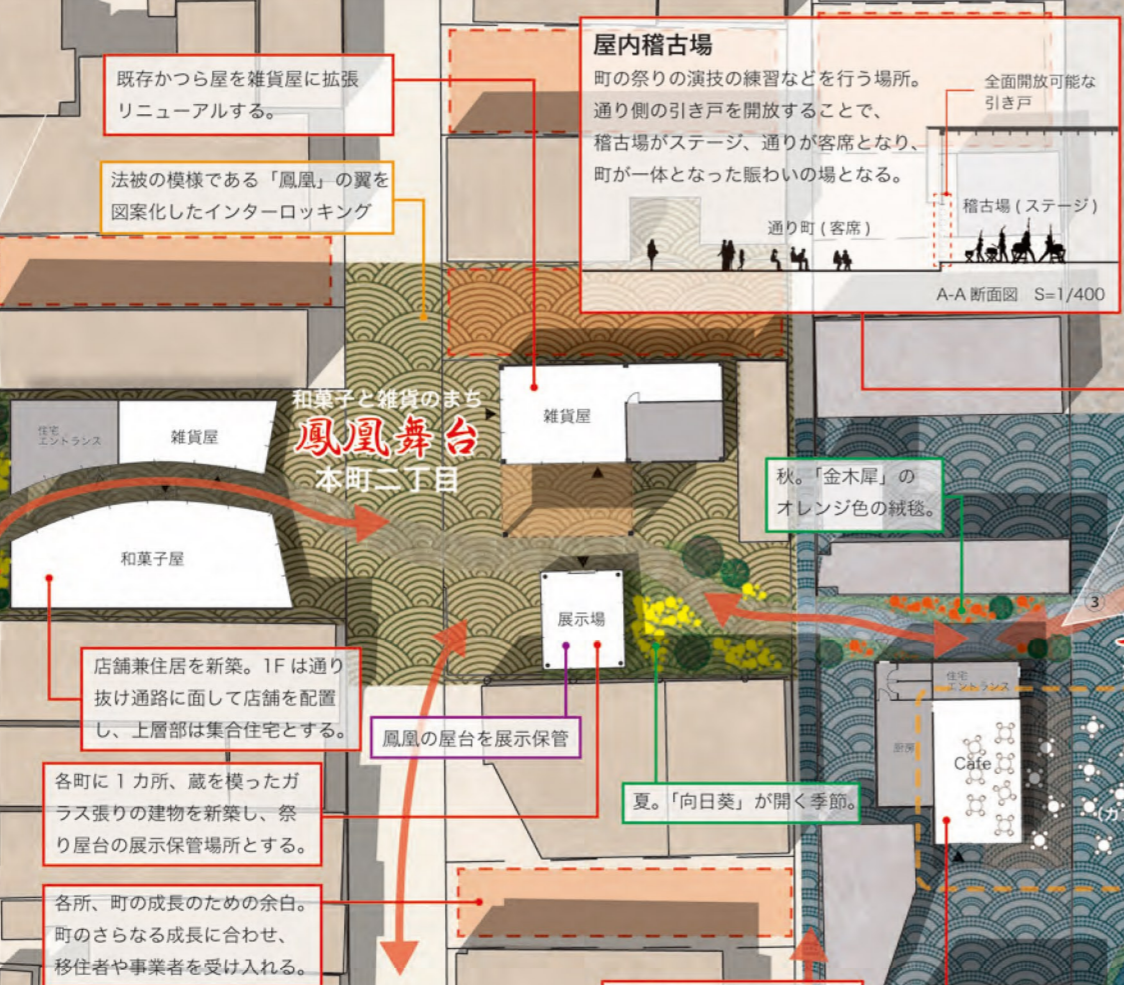
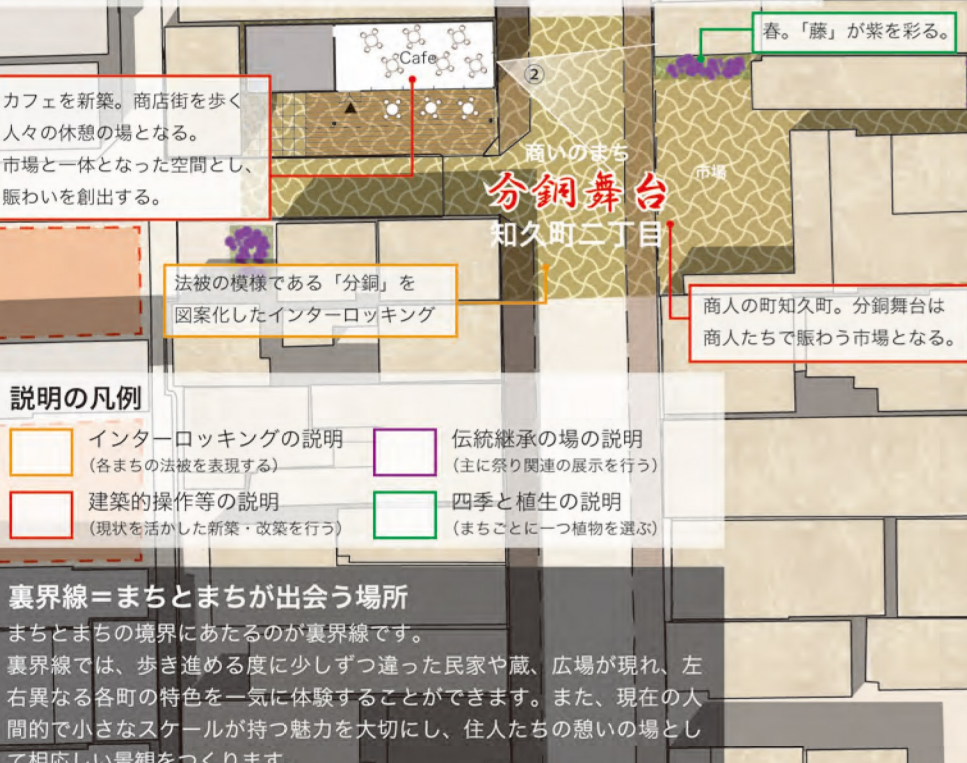
リニア駅周辺を先進都市、飯田駅周辺を伝統都市として位置付けます。
リニア駅周辺には、都心直結の場所として流行ブランドを取り入れた商業施設や娯楽施設、都心を拠点とする企業のオフィス、高層集合住宅、宿泊施設などの先進的なものや情報が集まります。
一方で、飯田駅周辺は“大舞台広場”を中心に、「文化エリア」「交通エリア」「商業エリア」を配置して、伝統を重んじた地域密着型のまちづくりを行います。



景観形成区域の計画

—各町の色を育む“まち舞台”

各町はそれぞれに特色を保有しています。特色とは「祭り」をはじめ「習慣」「地形」「既存建物」など様々です。これらの特色を、発見的にとらえてデザインすることで明確化します。来訪者は通り町を軸として各まち舞台を散策することで、各町の特色に出会えます。一方で居住者は自らの町に誇りを持ち、自発的に町を育てます。この計画を発端として、町は自ら成長を続け、かつての活気を取り戻していきます。



説明の凡例
インターロッキングの説明 (各まちの法線を表現する)
建築的操作等の説明 (現状を活かした新築・改築を行う)
伝統継承の場の説明 (主に祭り関連の展示を行う)
四季と植生の説明 (まちごとに一つ植物を選ぶ)

裏界線=まちとまちが出会う場所
まちとまちの境界にあたるのが裏界線です。裏界線では、歩き進める度に少しずつ違った民家や蔵、広場が現れ、左右異なる各町の特色を一気に体験することができます。また、現在の大間的で小さなスケールが持つ魅力を大切に、住人たちの憩いの場として相応しい景観をつくります。

屋内稽古場
町の祭りの演技の練習などを行う場所。通り側の引き戸を開放することで、稽古場がステージ、通りが客席となり、町が一体となった賑わいの場となる。

まちの段差を活かす
町の段差は観客席や休憩ベンチとして活かし、立体的に変化のある景観を形成する。

裏界線との段差を活かしたテラス
立派な舞台から、相生舞台を望む

憩いのまち 相生舞台
松尾町二丁目

八千代舞台
ハレのまち 中央通り二丁目

相生舞台
中央通りはポルフェロとすることで歩行者優先道路とする。歩道の影らんだ部分は飲食店のカフェテラスや歩行者の休憩スペースとなる。歩道と車道は幅寄せやストリートファニチャーにより緩やかに仕切り、賑わいに満たされた通りとする。

通り町のインターロッキング
りんご並木のもの延長させる。

法線の模様である「櫛子」を取り入れたインターロッキング
通路となる部分は当初の「やぶれ櫛子」を模した。

法線の模様である「櫛子」を取り入れたインターロッキング
通路となる部分は当初の「やぶれ櫛子」を模した。

法線の模様である「浪飛沫」を取り入れたインターロッキング
通り町に賑わいがあふれる。

法線の模様である「浪飛沫」を取り入れたインターロッキング
通り町に賑わいがあふれる。

法線の模様である「浪飛沫」を取り入れたインターロッキング
通り町に賑わいがあふれる。

法線の模様である「浪飛沫」を取り入れたインターロッキング
通り町に賑わいがあふれる。

八千代舞台
八千代の屋台を展示保管

八千代舞台
法線の模様である「吉原繫ぎ」を取り入れたインターロッキング

八千代舞台
法線の模様である「吉原繫ぎ」を取り入れたインターロッキング

八千代舞台
法線の模様である「吉原繫ぎ」を取り入れたインターロッキング

八千代舞台
法線の模様である「吉原繫ぎ」を取り入れたインターロッキング

八千代舞台
法線の模様である「吉原繫ぎ」を取り入れたインターロッキング

八千代舞台
法線の模様である「吉原繫ぎ」を取り入れたインターロッキング